

授業科目名 (英文名)	教職実践演習 (栄養教諭) (Practical Seminar for the Teaching Profession : For Nutrition teacher)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	4 年次・後期
担当教員	竹内 和雄 尾崎 公子 保坂 裕子 永井 成美 井上 靖子 乾 美紀 島田 良子 半澤 史聡 山口 裕毅 能瀬 陽子	所属	環境人間学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>講義目的：栄養教諭になるための学びの集大成として、以下の到達目標を達成するために、課題学習（ロールプレイング）、食育授業参観、履修カルテ記入、模擬授業等の実践的演習を行う。</p> <p>到達目標：栄養教諭としての意欲、使命感や責任感にあふれ、教育的愛情を持って生徒を理解し接するとともに、他の教師等と協働し、学校給食管理能力を身につけ、学校栄養教育指導においてその能力を発揮できる資質能力を身につける。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 教師になるための「学びの軌跡の集大成」として、教師としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、生徒理解や学級経営等に関する事項、栄養教諭としての指導力に関する事項について学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <p>第 1 日目 1．オリエンテーションとこれまでの学習の振り返り（履修カルテから） 2．自らが目指す教師像（教育的使命感、責任感を中心に） 3．教師としての社会性や対人関係能力（教師同士の協働、保護者や地域との連携） 4．生徒理解と学級経営</p> <p>第 2 日目 5．模擬授業の計画立案 6．模擬授業のための教材、教具の工夫 7．模擬授業のための教具の作成 8．学校見学に当たっての視点の確認</p> <p>第 3 日目 9．食育授業の参観 10．食育授業指導者との授業についての対話 11．調理実習見学及び食育担当者との対話</p> <p>第 4 日目 12．模擬授業の実施と検討会 13．検討会を受けての指導計画の見直し 14．見直した指導計画についての討議 15．授業の総括（栄養教師としての資質の自己評価）</p>		
テキスト	学校栄養教育実習 1・2 に準ずる。		
参考文献	『栄養教諭』に関する文部科学省資料 『小学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』、『食に関する指導の手引 - 第2次改訂版 - 』		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準 「栄養教諭としての意欲、使命感や責任感にあふれ、教育的愛情を持って生徒を理解		

	<p>し接するとともに、他の教師等と協働し、学校給食管理能力を身につけ、学校栄養教育指導においてその能力を発揮できる最小限必要な資質能力」が身についた者に単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じてSからCまでの成績を与える。</p> <p>成績評価の方法 課題レポート、グループ討議、ロールプレイング、マイクロ・ティーチングの工夫および模擬授業（各20%）を基準として、受講態度（積極的な発言や質問等）を含めて総合的に評価する。</p>
履修上の注意・履修要件	<p>教育実習を含めて全ての教職課程の科目を履修済み、および同年度に単位取得見込みであるもの。</p> <p>当授業は履修者を教室定員の1/2未満に制限し、対面授業を行います。履修希望者が定員を超える場合は、ランダム抽選により履修者を決定します。なお、履修希望者が定員を若干名超える場合は、履修希望者全員の履修を認める場合もあります。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とすることがあり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境(PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境)が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡します。</p>
実践的教育	<p>担当教員には、栄養教諭として、学校における食に関する指導等に携わった経験を持つ教員（能瀬）を含む。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・11月からの変則的な集中講義なので、開講日に気をつけること。 ・100%教師を目指す気持ちで受講することを前提とする。